

都道府県別賞一等

生命保険が与えてくれるもの

山口県 周南市立福川中学校 二学年

二見 優音

私の父はとても元気です。私が生まれる前も生まれた後も大きな病気をしたことがありません。そんな父でも生命保険に加入しているのだと実感できるのが、年末調整で保険料控除を受けるための申告書を記入する姿を見るときです。父は医療保険、就業不能保障保険、五年ごと利差配当付きこども保険を二つ、そしてガン保険にも入っています。

もちろん万が一のために保険に入っているのでしょうが、私はその万が一が起こらないことを強く願っています。そんな気持ちを父に話したとき、父はこのような言いました。

「色々保険に入っていたけれど、結局あまりお世話になることはなかったねと言える未来が目標だね。」

私はその言葉を聞いて少し安心したと同時に、生命保険は私たちに何を与えてくれるのだろうかと考えました。

二〇二一年の調査によると、生命保険に加入した目的は、「医療費や入院費のため」が五十九%と最も多く、次に「万が一のときの家族の生活保障のため」が五十二・四%であり、ほとんどが経済面での安心に関する内容でした。この調査結果からもわかるように、保険が私たちに与えてくれるものとして、万が一の際に保険金が支払われるという安心が挙げられます。私も同感ですし、これが答えだと言ってもよいのかもしれない。

しかし、私以外にも生命保険が与えてくれるものがあると思います。私には、父の言葉は「大病を患うことなく、家族を支えていくぞ。」という決意のようにも聞こえました。父は煙草をやめ、片道約十キロメートルの自転車通勤を十年以上続けています。生命保険が父に抱かせた決意は、家族に安心感を与えてくれています。生命保険への加入が父の健康に対する意識を高め、さらに、それが家族の安心につながっているのです。

また、母にとつての生命保険は「御守り」だそうです。万が一の保障というよりは「病気になりませんように。事故に遭いませんように。」という祈りの気持ちが強いようです。私や姉にかけてくれている保険は目には見えない母の想いがこもった「御守り」なのです。

しかし、そんな母自身はまだ二歳のときに病気で入院し手術をしました。そのとき母は、「早く元気になって、一日でも早く家に帰らなければならぬ。」

第61回中学生作文コンクール

と強く思ったそうです。手術の傷がとても痛かったけれど、早く体力をもとに戻そうと、病院の廊下を積極的に歩くなど自主リハビリに励んだそうです。その甲斐あって、母は予定よりも早く退院して家に帰ることができました。それからしばらくして給付金が振り込まれたそうですが、そのとき貰った給付金は、「よくがんばったね。」というご褒美のように感じられたそうです。そして、そのときから、十年以上経ちましたが、母は今、元気に過ごしています。病気にはなったけれど大事にいたらなかったのは、生命保険の御守り効果とも言えるのかもかもしれません。

生命保険は大勢の保険契約者が保険料を負担し、それを財源として、誰かが亡くなったり、病気になったり、事故でケガをしたときに保険金や給付金を受け取ることができるという仕組みです。健康への願いを込めて加入した生命保険が、自分自身や家族の健康を守り、支払った保険料がどこかで、病気になったり、事故に遭ってケガをした人やその家族を守ってくれている。そう考えると生命保険は加入者全ての人にとっての「御守り」だと言えるのではないかと考えます。

今日も一日、私も家族も元気に過ごすことができました。特別良いことがあったわけではありませんが、家族みんなが笑顔です。

「御守り」に感謝です。